

新しい友だちつくろう

広報はばたき

新発田青少年健全育成市民会議



射的



スーパーボールすくい

子どもまつり
2012



児童センター
行事です



ジャンケンマン



魚釣りゲーム



受付

9月30日(日)
サン・ビレッジしばた

青少年健全育成「市民一斉パトロール」のお知らせ

明日を担う青少年の健全育成のために、大勢の皆様のご協力をお願いします。

- ・と き 11月3日(土・祝日) 午前9時30分～正午
- ・出 発 式 9時30分～10時 新発田駅前公園(雨天決行)
- ・パトロール等 10時30分～正午(中学校区毎)

パトロール等は、中学校区毎の活動になります。(別の日に行う地区もあります。)

～詳しくは、市民会議事務局またはお住まいの育成協議会へ～

青少年健全育成市民大会を開催！

来賓として、市長代理塚野教育長様、市議会議長代理斎藤副議長様、新発田警察署生活安全課高橋課長様、教育委員の皆様をお迎えし300人近い市民の方々参加のもと開催されました。



○功労者表彰

- ・伊藤 光一様 「さわやか佐々木っ子育成会理事」
- ・白井 茂夫様 「前新発田青少年健全育成市民会議会長」
- ・小川 正則様 「新発田市健民少年団渉外部長」
- ・田村 光雄様 「前新発田青少年健全育成市民会議副会長」
- ・豊岡 克弘様 「新発田市子ども会連合会副会長」

○活動事例発表

加治川地区青少年健全育成協議会 会長 酒井 鉄男様

「子どもの元気は 地域の元気」



私たちは地域青少年協会は、地域性を踏まえ、継続性や人との関わり合いを大切にしながら活動を行ってきました。

その中で強く感じることは、「子どもの元気な活動は、地域を明るくする」と言うことです。それには、子どもの元気を具体的な姿、形として、地域の人に見えるように発信することです。

今までの活動を通して忘れてならないのは、活動を支え励ましてきたのは、大人たちであることです。

子どもの活動と関わり合って、大人もまた変わりつつあるのも確かです。協力と言う形で顕れていることに心強さを感じます。

少子化の波は、学校のクラブ活動、地域の子ども会活動や伝統芸能を伝承する活動にも影響を与えています。

私たちの広報紙「はぐくみ」でも、ここ3年間このことを採りあげ、資料を提供したり、座談会を開催したりして、地域の

人たちがみなで考えようと努めてきました。
24年度は、このことなどを踏まえて、子どもと地域との共同活動、子ども会の組織化などについて、地域の人々、諸団体・機関と連携しながら活動を進めたいと思います。



○記念アトラクション

佐々木チア教室ピンキーズ

「佐々木チア教室」は、佐々木コミュニティ事業の一環として立ち上げられました。愛称を「ピンキーズ」として5年目になります。メンバーは、小学生から中学生までの32名で活動しており、市や地域の行事の出演依頼も多く、地元イベントには欠かせない存在に成長しています。



中学生による わたしの主張(要旨) 〈市内5中学校〉



そんな友達を、私はいつまでも大切にしていきたいと考える。

憧れから始まる夢

猿橋中学校三年 榎本 空

祖父の書いた詩が載っている『文芸しばた』を何気無い気持ちで読んだら素晴らしく、憧れ、「小説家になりたい」という強い志を抱くようになりました。それからあらゆる試行錯誤を繰り返し、小説を書いていきます。中学校卒業を前にし、この道を歩んで行こうと心に決めました。

挨拶から始まること

川東中学校三年 井上 凌我

友達
本丸中学校三年 菅口 優音

自分にとって「友達」とは何か。私が、二年前の東日本震災とその後避難生活を通して考えた「友達」とは…。

一番信頼できる存在。将来辛い時に励まし合える仲間。捉え方は人それぞれだが、私が考える「友達」とは、こんな感じだ。

「朝を制する者は、一日を制す。」これは、朝自分を含めて、みんなの気持ちを温かくすることができれば、その日一日を心豊かに過ごすことができるということだ。毎日行いう挨拶を心を込めて行えば、笑顔が広がり温かい気持ちをもった学校生活を送れる。挨拶の素晴らしさを一人でも多くの人に伝えられるように、心のこもった挨拶をしていこう。

相手の気持ちを考える

佐々木中学校三年 江口 瑞穂

普段から、相手の気持ちを考えようと心がけていても自分の感情が優先し、周りへの思いやりにかけてしまっていた私。人とかかわりは、自分の心次第自分の言動次第であることを改めて心に留める。「いつも身近にいてくれる人やこの先の新たな出会いを大切にすること」「元気を与える言葉をかけられる人になること」を決意し、一日一日を笑顔で過ごしていきたい。

祖父が教えてくれたこと

紫雲寺中学校三年 渡邊 和貴

優しくあった祖父がアルツハイマー型認知病になった。次第に病状が悪化していく姿が衝撃的で、そんな祖父を避けてしまった。祖父が亡くなったとき、祖父のために何もしてあげられなかったことに気が付き、情けなくて泣いた。今は大切な人を失っても後悔しないように、大切な家族とともに笑顔で過ごしていきたいと思う。きっと祖父もそれを望んでいてくれると思うからだ。

新しい友だちづくり

本丸中学校PTA会長

出戸 良和

新しい友だちづくり、まずは挨拶から。ポソポソではなく、きちんと言うようにし、慣れたら相手の目を見て挨拶をする。また、当番などでクラス全体に呼びかけないといけない日、クラス中に聞こえる声を出すなど、自分から積極的な声をかける。

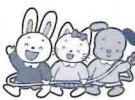
また、自分がしてほしかったらまず自分が先に相手にする。好きになっても欲しかったら自分が話しかける。挨拶してほしかったら自分から『おはよう』って言う。

すごく勇気がいると思います。やっても友だちにはなれないかもしれないが、何もしないでいるより良いと思います。これから、新しい友だちをたくさん作っていききたいと思います。

年度スローガン

新しい友だちつくろう

新発田青少年健全育成市民会議



友だちづくりについて思うこと

加治川小学校PTA会長

南部 清昭

近年、社会環境や生活環境により、家庭や地域における人間関係の希薄化が進んでいると言われます。これらを改善するためには、あらゆる人との関わりを持つことが大切であり、子どもの頃から沢山の友だちをつくり、人との関わりを持つことが必要です。その友だちをつくる場として、いくつかあると考えます。それは、「学校における友だちづくり」、「地域の活動を通じた友だちづくり」、「習い事等における友だちづくり」、そして「家族同士の付き合いからの友だちづくり」の四つがあると思います。特に「習い事等における友だちづくり」はあらゆる地域から人が集まり、共通の事柄を話すことができるので特に有効な友だちづくりの場であると思います。

いずれも基盤となるのは「健全な家庭環境と保護者の子どもに対する理解」です。保護者が子どもにわずかな「きっかけ」をつくれれば、子どもは自ら進んで友だちづくりをすることができそうです。皆さんも色々な意見があると思いますが、この機会に考えてみてはどうでしょうか。

各育成会の活動

それぞれの地域特性を生かして活動をすすめています。

○川東地区自治連合会育成部



6/30に自治連合会主催で行った二王子岳登山の様子です。体育部などと連携した自治連合全体の事業です。川東地域の小学校、中学校の子どもたち、保護者、育成部の大人など地域の方々がたくさん参加しました。

●御免町・一中校区青少年健全育成会議



連日の猛暑にも負けず、今年も夏祭りは全員が輪になって新発田甚句を踊り、その後は模擬店で健康ボールや目当ての玩具をゲットしたり、福引きでは、メロン、ブドウ、マツタケなどの高級品が当たり、ニッコリ顔のお母さん、僅かな番号違いでシブイ顔のお父さんなど、家族で楽しく過ごした一夜でした。

●さわやか佐々木っ子育成会



子どもたちは、地元に伝わる盆踊り「サイサイ」の太鼓の打ち方を、地域の指導者から4回シリーズで教えていただきました。



○紫雲寺地区青少年健全育成協議会

日ごろの練習の成果の結果、本番の稲荷岡祭りですぐに上手に踊ることができました。

●二葉地区青少年健全育成協議会



PTAおやじの会と二葉地区育成協議会とで毎年、「親子サマーキャンプ」を実施しています。おやじの会の皆さんが準備をしてくださり、親子で楽しめる活動です。

●東豊学区青少年健全育成協議会



設立20周年記念事業の第一弾として「簡単にできるテーブルマナー」を開催し、和食…お箸の使い方から、洋食…ナイフ・フォークの使い方を楽しみながら勉強しました。

あとがき

今号は、3月号に載せられなかった地区育成協議会の活動写真を紹介しました。活動の参考にしてください。

今年度、市民会議は「新しい友だちつくる」を年間スローガンに掲げ活動します。連日、マスコミ報道で「いじめ」を目にします。年間7万件を超える認知件数であると報道されています。

何故、まわりの人が気づいていないのか？他人ごとのように、無関心でいる周りの人々を腹立たしく思います。親も学校も子どもと向き合い、素直に話し合える環境づくりが大切ではないでしょうか。

〈富樫 政晴〉

発行 新発田青少年健全育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
電話 (〇二五四) 二六〇八九七

編集委員

佐藤 靖雄 富樫 政晴
猿子 洋司 渡辺 富子
金田 緑 荒川真里子